

明治大学校友会豊島区地域支部会報

豊島支部 NEWS

2012年 第41号

<http://toshima.meiji-shikon.net/>
フェイスブックもチェック!!

毎年恒例 池袋で暑気払い大会開催



8月4日夕刻6時より、明治大学校友会豊島区地域支部恒例の『夏を吹き飛ばせ!!暑気払い』が、池袋東口駅前の「第一イン池袋」内2階Pinoにて開催されました。

井上季里、亀山淑美両常任幹事の女性司会者による開会の辞に始まり、三浦支部長の挨拶、山本守敏校友（昭和45年商学部卒）の乾杯で始まりました。

気温約32度、湿度65%の猛暑の中、豊島区内各界で活躍する校友約45名が参加して各々好きなグラスを傾け、和気藹藹と充分にのどを潤し先輩後輩の絆を深めました。

豊島区は本年「豊島区政80周年」の記念の年に当り、記念事業の実行委

員長を務められる鈴木正美（昭和39年政経学部卒）東京商工会議所豊島支部会長より、その意義と今後の活動について熱い情熱を込めた挨拶がありました。

また、豊島区役所からも管理職の校友も参加され、改めてその活動の大切さを胸に刻みました。

そして、本年暑気払いのメインイベントは池袋本町の「劇団ムジカフォンテ」代表知久晴美さん達による歌と寸劇のミニステージは参加者全員が聞き惚れ、共に歌い大好評のステージでした。

校歌斉唱では応援団OB橋爪孝利校友（平成6年経営学部卒）の指揮により『おお明治・・・』の大合唱で、世代を超え、声をそろえ、こぶしを振り上げしばしば往時に思いを馳せて大満足の宴と成りました。

最後に増田治美常任幹事（昭和45年商学部卒）の一本締めでお開きと成りました。

三浦支部長は「我々豊島区地域支部は老若青及び特に女性の参加が増え、地道な活動を通し地域貢献が出来れば最高で有り、素晴らしい支部にしたい」と笑顔で今後の抱負を語られました。

来年の暑気払い大会も大勢の校友の皆様が元気で笑顔で御参集下さることをお願い致します。

第3回「明治・立教 六大学野球応援&懇親会」

今シーズンで3回目を迎える「明治・立教六大学野球応援&懇親会」が9月16日(日)開催された。

前日2対0と立教に先勝されて迎えた2回戦、この日は明治打線が爆発！7対2と快勝し、対戦成績を1勝1敗のタイとした。試合終了後、会場を神宮球場から池袋に移し、懇親会が賑やかに行われた。

池袋フジキビル(2F)にミルキーウェイのあるビル)地下のアラビア料理「ココプランカ」に集まった校友は26名(明治14名、立教12名)、豊島区以外からも多数の「野球好き」が集まり、互いに両校の健闘をたたえながら野球談議に花を咲かせた。

この懇親会は、明・立両校が交代で幹事を務めており、今回は豊島立教会の企画。参加者は冷たいビールと美味しいアラビア料理に舌鼓を打ちながら大いに懇親を深め、最後は両校の応援歌・校歌を全員で大合唱しお開きとなった。



平成24年度明治大学校友会 豊島区地域支部 総会・懇親会

今年の豊島区地域支部の総会・懇親会を平成24年11月10日(土)18:00より豊島区勤労福祉会館にて開催いたします。ご来場お待ちしております。

明大交友会豊島支部総会時 トークセッションのご案内 〜前へ、前への明治魂で、やっとな 勝ち取った悲願の金メダル〜

来る11月10日開催の「平成24年度明大総会」終了後に今回もトークセッションを企画致しました。今回のパネラーは、「ロンドン・パリンピック」開催5日目の競泳女子100メートル背泳ぎ(視覚障害S11)で見事悲願の金メダルを獲得された、本学大学院の 秋山 里奈さんをお招き致しました。

秋山さんはパリンピックに初出場した2004年のアテネ大会の同種目で銀メダルを獲得しましたが、2008年北京大会では競技人口が少ない事を理由にこの種目が廃止に追いやられてしまいました。

この度のロンドンでは得意の種目が復活される事が解り、北京大会後に引退も考えたが気持ちを立て直して臨んだ大一番の舞台でした。悲願の金メダルを獲得した秋山選手は、ゴールし自らの優勝を確信した瞬間、水中で右手を高々と6回も突き上げ、歓喜の思いを身体一杯で表されたことは皆さんの記憶にも新しいことと存じます。「この日の為に頑張ってきた。充分にやり切ったという気持ちがある」とコメントをしておられます。

秋山さんは生まれつきの全盲で、3歳の時お



姉さんが通っていたスイミングスクールで水泳を始めました。筑波大学付属視覚特別支援学校在学中のアテネ大会では「何となく出場し」銀メダルを獲得、しかし、その後、大学受験に失敗。1年浪人し、水泳から離れたこともあった様です。競技を再開してこぎ着けた北京では自由形で8位入賞。此の時に自ら「納得のいくレース」と考え、引退を決意しましたが、コーチから「10年の世界選手権で金メダルを狙え」と説得され挑んだ世界選手権、僅差ではありませんでしたが2位でした。それからスランプに陥り結果が伴わない時期が続きましたが、オリンピックイヤーの今年に入り、フォームも矯正し、7月の国内大会で世界新記録を叩きだし、ようやく自信を取り戻したとの事です。

本学入学後は伊勢原市の自宅から片道2時間かけて大学に通い、帰宅後に練習という厳しい毎日ですが、「文武両道が大事」とこども明治魂を貫いておられます。現在は大学院で刑法を学んでおられ、「これから卒論で汗を流さなければ」と頑張っています。

そんな素敵な我が明治大学の校友である金メダリストの秋山さんをお招きしてのトークセッションです。是非校友会豊島支部の皆さまのご参加を幹事一同心よりお待ちしております。

お店紹介

豊島区内で「商売をしていっしょにやる」校友を紹介するコーナーです。



商学部昭和59年卒
井上 季里

今回は以前「明治魂を伝える」(第37号)にご登場いただいた商学部昭和59年卒の井上季里さんの『りこう保育園』を取材させていただきました。井上さんは試食販売の人材派遣会社、株式会社カラミー代表として多忙な日々を送られる一方で、「働く女性を応援したい」と長年の想い続けておられたそうです。平成22年4月念願が叶い、池袋の地に保育園をオープンされました。

「平和通り」のほぼ中央にある保育園を訪ねると、元気な園児たちと明るいスタッフの声が聞こえてきました。「元気で明るい挨拶が響きあう園」がりこう保育園のこだわりなのです。「大きな声で挨拶できる。ちゃんと『ありがとう』や『ごめんさい』が言える」こうしたことは、単にスローガンとして掲げているだけではなく、園長である井上さんが率先垂範で実行されています。(園内に一番



大きく響いているのは井上さんの声かも…)他にも体操や食育などユニークなプログラムと独自のイベントで、園児ひとりひとりの年齢、発達、性格に合わせて少人数保育を実践しておられます。毎週水曜と土曜の午前10時から始まる「りこう体操教室」は、1〜5歳のお子さんが対象。ピアノに合わせてとび箱や鉄棒にチャレンジしますが、指導は自衛隊体育学校の佐藤教官という本格的なプログラム。親子そろって運動の楽しさが体感できると評判です。在園児以外のお子さんも参加できますので、地元



子育てママには是非ご紹介いただきたいと思えます。また「食べる意識を育てる」との方針のもと、食育についても熱心に取り組んでいらっしやいます。長年、試食販売で培ったノウハウと「ケタ外れの食いしん坊」を自任する井上さんは、食材選びから全く手を抜きません。手間ひまかけて手作りされたお料理は、温かく体にも優しい給食となっています。

また、食品メーカーをはじめ多方面に広くネットワークをお持ちの井上さんは、子育てママ応援イベントも次々と開催されています。「良いものを提供したい」という井上さんの声掛けに多くの企業の協賛を得ています。先日行われた「ママとキッズのリラックスタイム」では、

40人を超える地元のお母様が、アロママッサージやハンドエステ、骨盤ケアや耳ツボマッサージを体験されたそうです。人材派遣、カラーコーディネーターなど様々なビジネス経験とご自身も子育て経験をお持ちの井上さんならではのアイデアと意気込みを感じました。ますますのご活躍をお祈りいたします。

(取材・文 島倉仁志)

★りこう保育園★

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-65-15 成田ビル1F
TEL.03-6914-0232 <http://www.rikouhoikuen.com/>

開園時間：月～金 8:00～18:00(基本時間)
朝 7:30～8:00/夕 18:00～19:00(特別保育時間)
土 9:00～18:00(特別時間なし)

※上記以外の特別保育時間についてはご相談ください。

休園日：日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、
GW(5月5日)、お盆休み(8月14日～16日)

※災害の発生等非常の場合は、休園または時間短縮をすることがあります。

対象年齢：生後56日～就学前(スポット保育は生後6ヶ月～)

定員：25名

明治魂を伝える



昭和52年工学部卒・昭和54年修士

小松 聡

「明治魂とはなにか(雑感)」

した理由は以下のとおりであります。高

校生時代から「どちらかといえば理系だな」と思いつつも何の分野に進むか決めかねており、父親が建築学科出身でメーカー勤務であったことからなんとなく「私学受験は建築学科だな」と思っていました。その当時、私学建築の「雄」といえば早稲田大学でしたがちょっとハードルが高く、父親の同級の先生方が多く在籍されていた明治大学になんとなく安心感を感じて受験いたしました。



最前列右から2番目の紺のベストを着ている方が小松氏。

今回「明治魂を伝える」の執筆を依頼されたとき、「何を書こうか」、「私ごとき弱輩の拙文でよいのか」と正直なやみましました。しかしながら「明治大学・明大生の気質とは何か」といった話題が上るときに必ず思い出す恩師がいることに気づき、今回はその方のことを述べさせていただきます。

私が明治大学工学部建築学科を受験

特に茶室研究に独自の作風を築き後に日本建築学会特別賞を受賞された「早川正夫先生」など父の同期の先生方がいらつしやいました。そのほかにも近代建築史・建築意匠の神代雄一郎先生、鉄骨構造の小倉弘一郎先生のほか早々たる教授陣を誇っておりました(実は入学してから知ったのですが)。

そのなかで、日本建築史を担当されていた「木村徳国 教授」についてお伝えしたいと思えます。木村徳国先生もやはり父の同期の先生でしたが、学内でのお姿はポロシャツにスラックス、腰に手ぬぐいを下げ研究室ではゴム草履といった気取らないお姿で、背広姿のほかの先生方とは一風変わった方でありました。恩師の太田博太郎先生とともに近代日本住宅史の書籍を著しておられました。当時の研究テーマは「古代における建築」についてであり「万葉集における「イヘ」「トノ」についての研究」という地道ではあるが日本の建築の捉え方を根本から見直そうとしておられました。私も時々研究室にお邪魔してさまざまな建築論議をさせていただき、時には焼き鳥屋に誘われながら飾らない言葉で建築に対する考え方を教えていただきました。ちょうど、私が卒業する年度に学科長を務めておられ、いまだに忘れられない卒業式のご挨拶が「君たちはこれから社会

にでて建築界に進むことになるが死ぬ気で頑張れ!!死ぬと思うくらい必死で建築をやっていくんだ。」と熱い激励のお言葉でした。「ただし、死んでしまつては何にもならないよ。」と付け加えられた暖かい言葉が印象的でいつも大学時代を思い出すたびによみがえつて来ます。そのくらい、その言葉は私のなかでは大学生活の一番心に残る言葉としてまたその後の指針として響く言葉でありました。

その後、私は建築計画研究室に進み木村徳国先生とは別の分野に進むことになりましたが学内では時々研究室にお邪魔してお話を伺つておりました。修士を終了し就職して数年後に木村徳国先生の訃報を聞くことになりました。50歳代半ば過ぎの早すぎる訃報でした。

私が「明大気質」「明治大学魂」といった言葉を聴くといつも思い出されてならないのが以上ご紹介した木村徳国先生のお姿とお人柄でございます。質実剛健、たとえ地味でも決めたテーマに向かつて進む、でも人に対する人情味は忘れない。このような恩師の方々に出会えたことが「明治大学でよかったな」と思える今日を迎え、皆様と交流できることとなりましたことを感謝して終わりたいと思います。(乱文乱筆、)容赦ください)